



システム メッセージ ログिंगの設定

この章では、システム メッセージ ログिंगを設定する方法を説明します。

この章では、次の事項について説明します。

- 「システム メッセージ ログिंगの概要」 (P.12-1)
- 「システム メッセージ ログिंग ファシリティ」 (P.12-2)
- 「注意事項および制約事項」 (P.12-5)
- 「デフォルト設定」 (P.12-5)
- 「システム メッセージ ログिंगの設定」 (P.12-5)
- 「システム メッセージ ログिंगの設定確認」 (P.12-14)
- 「システム メッセージ ログिंगの設定例」 (P.12-18)
- 「その他の関連資料」 (P.12-18)
- 「システム メッセージ ログング機能の履歴」 (P.12-18)

システム メッセージ ログングの概要

システム メッセージ ログングを使用して宛先を制御し、システム プロセスが生成するメッセージの重大度をフィルタリングできます。ターミナルセッション、ログ ファイル、およびリモート システム上の Syslog サーバへのログングを設定できます。

システム メッセージ ログングは RFC 3164 に準拠しています。システム メッセージのフォーマットおよびデバイスが生成するメッセージの詳細については、『Cisco NX-OS System Messages Reference』を参照してください。

デバイスはデフォルトで、ターミナルセッションにメッセージを出力します。ターミナルセッションへのログングの設定については、「ターミナルセッションへのシステム メッセージ ログングの設定」 (P.12-6) を参照してください。

表 12-1 に、システム メッセージで使用する重大度を示します。重大度を設定する場合、システムはそのレベル以下のメッセージを出力します。

表 12-1 システム メッセージの重大度

レベル	説明
0: 緊急	システムが使用不可
1: アラート	即時処理が必要
2: クリティカル	クリティカル状態

表 12-1 システム メッセージの重大度 (続き)

レベル	説明
3: エラー	エラー状態
4: 警告	警告状態
5: 通知	正常だが注意を要する状態
6: 情報	単なる情報メッセージ
7: デバッグ	デバッグ実行時にのみ表示

デバイスは、重大度 0、1、または 2 のメッセージのうち、最新の 100 個をログに記録します。

メッセージを生成したファシリティと重大度に基づいて記録するシステム メッセージを設定できます。ファシリティについては、「システム メッセージ ログイング ファシリティ」(P.12-2) を参照してください。モジュールおよびファシリティごとの重大度の設定については、「モジュールのシステム メッセージ ログイングの設定」(P.12-8) を参照してください。

Syslog サーバは、Syslog プロトコルに基づいてシステム メッセージを記録するよう設定されたリモートシステムで稼動します。最大で 3 台の Syslog サーバを設定できます。Syslog サーバの設定については、「Syslog サーバの設定」(P.12-11) を参照してください。



(注)

最初のデバイス初期化時に、メッセージが Syslog サーバに送信されるのは、ネットワークの初期化後です。

システム メッセージ ログイング ファシリティ

表 12-2 に、システム メッセージ ログイング コンフィギュレーションで使用できるファシリティの一覧を示します。

表 12-2 システム メッセージ ログイング ファシリティ

ファシリティ	説明
aaa	AAA マネージャ
aclmgr	ACL マネージャ
adjmgr	隣接マネージャ
all	すべてのファシリティを表すキーワード
arbiter	アービター マネージャ
arp	ARP マネージャ
auth	許可システム
authpriv	プライベート許可システム
bootvar	Bootvar
callhome	Call home マネージャ
capability	MIG ユーティリティ デーモン
cdp	CDP マネージャ
cert-enroll	証明書登録デーモン
cfs	CFS マネージャ

表 12-2 システム メッセージ ログイング ファシリティ (続き)

ファシリティ	説明
clis	CLIS マネージャ
cmpproxy	CMP プロキシ マネージャ
copp	CoPP マネージャ
core	コア デーモン
cron	cron および at スケジューリング サービス
daemon	システム デーモン
dhcp	DHCP マネージャ
diagclient	GOLD 診断クライアント マネージャ
diagmgr	GOLD 診断マネージャ
eltn	ELTM マネージャ
ethpm	イーサネット PM マネージャ
evmc	EVMC マネージャ
evms	EVMS マネージャ
feature-mgr	Feature マネージャ
fs-daemon	Fs デーモン
ftp	ファイル転送システム
glbp	GLBP マネージャ
hsrp	HSRP マネージャ
im	IM マネージャ
ipconf	IP コンフィギュレーション マネージャ
ipfib	IP FIB マネージャ
kernel	OS カーネル
l2fm	L2 FM マネージャ
l2nac	L2 NAC マネージャ
l3vm	L3 VM マネージャ
license	ライセンス マネージャ
local0	Local use daemon
local1	Local use daemon
local2	Local use daemon
local3	Local use daemon
local4	Local use daemon
local5	Local use daemon
local6	Local use daemon
local7	Local use daemon
lpr	ライン プリンタ システム
m6rib	M6RIB マネージャ
mail	メール システム
mfdm	MFDM マネージャ

表 12-2 システム メッセージ ログング ファシリティ (続き)

ファシリティ	説明
module	モジュール マネージャ
monitor	イーサネット SPAN マネージャ
mrrib	MRIB マネージャ
mvsh	MVSH マネージャ
news	USENET ニュース
nf	NF マネージャ
ntp	NTP マネージャ
otm	GLBP マネージャ
pblr	PBLR マネージャ
pfstat	PFSTAT マネージャ
pixm	PIXM マネージャ
pixmc	PIXMC マネージャ
pktmgr	パケット マネージャ
platform	プラットフォーム マネージャ
pltfm_config	PLTFM コンフィギュレーション マネージャ
plugin	プラグイン マネージャ
port-channel	ポート チャネル マネージャ
port_client	ポート クライアント マネージャ
port_lb	診断ポート ループバック テスト マネージャ
qengine	Q エンジン マネージャ
radius	RADIUS マネージャ
res_mgr	リソース manager
rpm	RPM マネージャ
security	セキュリティ マネージャ
session	セッション マネージャ
spanning-tree	スパニング ツリー マネージャ
syslog	内部 syslog マネージャ
sysmgr	システム マネージャ
tcpudp	TCP および UDP マネージャ
u2	U2 マネージャ
u6rib	U6RIB マネージャ
ufdm	UFDM マネージャ
urib	URIB マネージャ
user	ユーザ プロセス
uucp	UNIX 間コピー システム
vdc_mgr	VDC マネージャ
vlan_mgr	VLAN マネージャ
vmm	VMM マネージャ

表 12-2 システム メッセージ ログイング ファシリティ (続き)

ファシリティ	説明
vshd	VSHD マネージャ
xbar	XBAR マネージャ
xbar_client	XBAR クライアント マネージャ
xbar_driver	XBAR ドライバ マネージャ
xml	XML エージェント

注意事項および制約事項

システム メッセージは、デフォルトでコンソールおよびログ ファイルに記録されます。

デフォルト設定

表 12-3 に、システム メッセージ ログイングのデフォルト設定を示します。

表 12-3 システム メッセージ ログイングのデフォルト

パラメータ	デフォルト
コンソール ログイング	重大度 2 でイネーブル
モニタ ログイング	重大度 5 でイネーブル
ログ ファイル ログイング	重大度 5 でログ メッセージをイネーブル
モジュール ログイング	重大度 5 でイネーブル
ファシリティ ログイング	イネーブル。重大度については「システム メッセージ ログイング ファシリティ」(P.12-2) を参照
タイムスタンプ単位	秒
Syslog サーバ ログイング	ディセーブル
Syslog サーバ設定の配布	ディセーブル

システム メッセージ ログイングの設定

ここでは、次の内容について説明します。

- 「ターミナルセッションへのシステム メッセージ ログイングの設定」(P.12-6)
- 「ターミナルセッションのシステム メッセージ ログイングのデフォルトの復元」(P.12-7)
- 「モジュールのシステム メッセージ ログイングの設定」(P.12-8)
- 「モジュールのシステム メッセージ ログイングのデフォルトの復元」(P.12-9)
- 「ファシリティのシステム メッセージ ログイングの設定」(P.12-9)
- 「ファシリティのシステム メッセージ ログイングのデフォルトの復元」(P.12-11)

- 「Syslog サーバの設定」 (P.12-11)
- 「サーバのシステム メッセージ ログिंगのデフォルトの復元」 (P.12-12)
- 「UNIX または Linux システムを使用したログिंगの設定」 (P.12-13)
- 「ログ ファイルの表示」 (P.12-13)



(注) NX-OS コマンドは Cisco IOS コマンドと異なる場合があることに注意してください。

ターミナル セッションへのシステム メッセージ ログिंगの設定

重大度に基づいて、コンソール、Telnet、および SSH セッションにメッセージを記録するには、ここに示す手順を実行します。

はじめる前に

この手順を開始する前に、次のことを確認または実行しておく必要があります。

- デフォルトでは、ターミナル セッションでログिंगはイネーブルです。

手順の概要

1. `terminal monitor`
2. `config t`
3. `logging console [severity-level]`
4. `show logging console`
5. `logging monitor [severity-level]`
6. `show logging monitor`
7. `copy running-config startup-config`

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	<code>terminal monitor</code> Example: n1000v# <code>terminal monitor</code> n1000v#	デバイスがコンソールにメッセージを記録できるようにします。
ステップ2	<code>config t</code> Example: n1000v# <code>config t</code> n1000v(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ3	<code>logging console [severity-level]</code> Example: n1000v(config)# <code>logging console 2</code> n1000v(config)#	指定された重大度とそれより上位の重大度のメッセージをコンソール セッションに記録するように、デバイスを設定します。重大度は 0 ~ 7 で、表 12-1 に示します。重大度が指定されていない場合、デフォルトの 2 が使用されます。

	コマンド	目的
ステップ 4	<code>show logging console</code>	(任意) コンソール ログング設定を表示します。
ステップ 5	<code>logging monitor [severity-level]</code> Example: n1000v(config)# logging monitor 3 n1000v(config)#	デバイスが指定された重大度とそれより上位の重大度のメッセージをモニタに記録できるようにします。この設定は、Telnet および SSH セッションに適用されます。重大度は 0～7 で、表 12-1 に示します。重大度が指定されていない場合、デフォルトの 2 が使用されます。
ステップ 6	<code>show logging monitor</code>	(任意) モニタ ログング設定を表示します。
ステップ 7	<code>copy running-config startup-config</code> Example: n1000v(config)# copy running-config startup-config	(任意) 実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

```

Example:
n1000v# terminal monitor
n1000v# config t
n1000v(config)# logging console 2
n1000v(config)# show logging console
Logging console:                enabled (Severity: critical)
n1000v(config)# logging monitor 3
n1000v(config)# show logging monitor
Logging monitor:                enabled (Severity: errors)
n1000v(config)#
n1000v(config)# copy running-config startup-config

```

ターミナル セッションのシステム メッセージ ログングのデフォルトの復元

ターミナル セッションのシステム メッセージ ログングのデフォルト設定を復元するには、CLI グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを実行します。

コマンド	説明
<code>no logging console [severity-level]</code> Example: n1000v(config)# no logging console n1000v(config)#	デバイスによるコンソールへのメッセージのログングをディセーブルにします。
<code>no logging monitor [severity-level]</code> Example: n1000v(config)# no logging monitor 3 n1000v(config)#	Telnet および SSH セッションへのメッセージのログングをディセーブルにします。

モジュールのシステム メッセージ ログイングの設定

モジュールごとに記録されるメッセージの重大度とタイムスタンプ ユニットの設定するには、ここに示す手順を実行します。

手順の概要

1. `config t`
2. `logging module [severity-level]`
3. `show logging module`
4. `logging timestamp {microseconds | milliseconds | seconds}`
5. `show logging timestamp`
6. `copy running-config startup-config`

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	<code>config t</code> Example: n1000v# <code>config t</code> n1000v(config)#	CLI グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	<code>logging module [severity-level]</code> Example: n1000v(config)# <code>logging module 3</code>	指定された重大度またはそれ以上の重大度であるモジュール ログ メッセージをイネーブルにします。重大度は 0 ~ 7 で、表 12-1 に示します。重大度が指定されていない場合、デフォルトの 5 が使用されます。
ステップ3	<code>show logging module</code>	(任意) モジュール ログイング設定を表示します。
ステップ4	<code>logging timestamp {microseconds milliseconds seconds}</code> Example: n1000v(config)# <code>logging timestamp microseconds</code>	ログイング タイムスタンプ単位を設定します。デフォルトの単位は秒です。
ステップ5	<code>show logging timestamp</code>	(任意) 設定されたログイング タイムスタンプ単位を表示します。
ステップ6	<code>copy running-config startup-config</code> Example: n1000v(config)# <code>copy running-config startup-config</code>	(任意) 実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

次に、モジュールのシステム メッセージ ログイングを設定する例を示します。

```
n1000v# config t
```



```

n1000v(config)# logging module 3
n1000v(config)# show logging module
Logging linecard:                enabled (Severity: errors)
n1000v(config)# logging timestamp microseconds
n1000v(config)# show logging timestamp
Logging timestamp:                Microseconds
n1000v(config)# copy running-config

```

モジュールのシステム メッセージ ログिंगのデフォルトの復元

モジュールのシステム メッセージ ログिंगのデフォルト設定を復元するには、CLI グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを実行します。

コマンド	説明
no logging module [<i>severity-level</i>] Example: n1000v(config)# no logging module 3 n1000v(config)#	モジュールのシステム メッセージ ログिंगのデフォルトの重大度を復元します。
no logging timestamp { <i>microseconds</i> <i>milliseconds</i> <i>seconds</i> } Example: n1000v(config)# no logging timestamp milliseconds	ログング タイムスタンプ ユニットの秒にリセットします。

ファシリティのシステム メッセージ ログिंगの設定

ファシリティごとに記録されるメッセージの重大度とタイムスタンプ ユニットを設定するには、ここに示す手順を実行します。

手順の概要

1. **config t**
2. **logging level** *facility severity-level*
3. **show logging level** [*facility*]
4. **logging timestamp** {*microseconds* | *milliseconds* | *seconds*}
5. **show logging timestamp**
6. **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	<code>config t</code> Example: n1000v# config t n1000v(config)#	CLI グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	<code>logging level facility severity-level</code> Example: n1000v(config)# logging level aaa 3 n1000v(config)#	指定された重大度またはそれ以上の重大度である指定のファシリティからのログイング メッセージをイネーブルにします。ファシリティについては、「システム メッセージ ログイング ファシリティ」(P.12-2) を参照してください。重大度は 0 ~ 7 で、表 12-1 に示します。同じ重大度をすべてのファシリティに適用するには、 all ファシリティを使用します。デフォルト値については、 show logging level コマンドを参照してください。
ステップ3	<code>show logging level [facility]</code> Example: n1000v(config)# show logging level aaa	(任意) ファシリティごとに、ログイング レベル設定およびシステムのデフォルト レベルを表示します。ファシリティを指定しなかった場合は、すべてのファシリティのレベルが表示されます。
ステップ4	<code>logging timestamp {microseconds milliseconds seconds}</code> Example: n1000v(config)# logging timestamp microseconds	ログイング タイムスタンプ単位を設定します。デフォルトの単位は秒です。
ステップ5	<code>show logging timestamp</code>	(任意) 設定されたログイング タイムスタンプ単位を表示します。
ステップ6	<code>copy running-config startup-config</code> Example: n1000v(config)# copy running-config startup-config	(任意) 実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

ファシリティのシステム メッセージ ログイングの設定例を示します。

```
n1000v# config t
n1000v(config)# logging level aaa 3
n1000v(config)# show logging level aaa
Facility           Default Severity   Current Session Severity
-----
aaa                 2                   3

0(emergencies)     1(alerts)          2(critical)
3(errors)           4(warnings)        5(notifications)
6(information)     7(debugging)

logging timestamp microseconds
n1000v(config)# show logging timestamp
Logging timestamp:           Microseconds
copy running-config startup-config
```

ファシリティのシステム メッセージ ログिंगのデフォルトの復元

ファシリティのシステム メッセージ ログिंगのデフォルトを復元するには、次のコマンドを使用します。

コマンド	説明
no logging level [<i>facility severity-level</i>] Example: n1000v(config)# no logging level aaa 3 n1000v(config)#	指定したファシリティのデフォルトのログング重大度を復元します。ファシリティおよび重大度を指定しなかった場合、すべてのファシリティがそれぞれのデフォルト重大度のリセットされます。
no logging timestamp { <i>microseconds</i> <i>milliseconds</i> <i>seconds</i> } Example: n1000v(config)# no logging timestamp milliseconds	ログング タイムスタンプ ユニットのデフォルトの秒にリセットします。

Syslog サーバの設定

システム メッセージ ログングのための syslog サーバを設定するには、ここに示す手順を実行します。

手順の概要

1. **config t**
2. **logging server host** [*severity-level* [*use_vrf vrf-name*]]
3. **show logging server**
4. **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	<pre>config t</pre> <p>Example: n1000v# config t n1000v(config)#</p>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	<pre>logging server host [severity-level [use-vrf vrf-name]]</pre> <p>Example: n1000v(config)# logging server 10.10.2.2 7</p>	<p>指定されたホスト名、あるいは IPv4 または IPv6 アドレスで Syslog サーバを設定します。use_vrf キーワードを使用すると、メッセージ ログイングを特定の VRF に限定できます。重大度は 0 ~ 7 で、表 12-1 に示します。デフォルトの発信ファシリティは local7 です。</p> <p>この例では、ファシリティ local 7 のすべてのメッセージを転送します。</p>
ステップ3	<pre>show logging server</pre> <p>Example: n1000v(config)# show logging server Logging server: enabled {10.10.2.2} server severity: debugging server facility: local7</p>	(任意) Syslog サーバ設定を表示します。
ステップ4	<pre>copy running-config startup-config</pre> <p>Example: n1000v(config)# copy running-config startup-config</p>	(任意) 実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

サーバのシステム メッセージ ログイングのデフォルトの復元

サーバのシステム メッセージ ログイングのデフォルトを復元するには、ここに示す手順を実行します。

コマンド	説明
<pre>no logging server host</pre> <p>Example: n1000v(config)# no logging server host</p>	指定されたホストのログイング サーバを削除します。

UNIX または Linux システムを使用したログिंगの設定

UNIX または Linux システムでメッセージ ログिंगを設定するには、ここに示す手順を実行します。

はじめる前に

この手順を開始する前に、次の点を理解または実行しておく必要があります。

- 次に示すのは、syslog 用に設定する UNIX または Linux のフィールドです。

フィールド	説明
Facility	メッセージの作成者。auth、authpriv、cron、daemon、kern、lpr、mail、mark、news、syslog、user、local0 ~ local7 です。アスタリスク (*) を使用するとすべてを指定します。これらのファシリティ指定により、発信元に基づいてメッセージの宛先を制御できます。 (注) ローカル ファシリティを使用する前に設定をチェックします。
Level	メッセージを記録する最小重大度。debug、info、notice、warning、err、crit、alert、emerg です。アスタリスク (*) を使用するとすべてを指定します。none を使用するとファシリティをディセーブルにできます。
Action	メッセージの宛先。ファイル名、前にアット マーク (@) が付いたホスト名、カンマで区切られたユーザ リストです。アスタリスク (*) を使用するとすべてのログインユーザを指定します。

手順の詳細

ステップ 1 UNIX または Linux システムで、次の内容をファイル /var/log/myfile.log に追加します。

```
facility.level <five tab characters> action
```

Example:

```
debug.local7 /var/log/myfile.log
```

ステップ 2 シェル プロンプトで次のコマンドを入力して、ログ ファイルを作成します。

```
$ touch /var/log/myfile.log
$ chmod 666 /var/log/myfile.log
```

ステップ 3 次のコマンドを入力して、システム メッセージ ログング デーモンが myfile.log をチェックして、新しい変更を取得するようにします。

```
$ kill -HUP ~cat /etc/syslog.pid~
```

ログ ファイルの表示

ログ ファイル中のメッセージを表示するには、ここに示す手順を実行します。

手順の概要

1. show logging last *number-lines*

手順の概要

	コマンド	目的
ステップ1	<code>show logging last <i>number-lines</i></code>	ログイング ファイルの最終行番号を表示します。最終行番号には 1 ~ 9999 を指定できます。

次に、ログ ファイル内の最後の 5 行を表示する例を示します。

```
n1000v# show logging last 5
2008 Aug 31 09:37:04 CP-beta2 %KERN-3-SYSTEM_MSG: packet_recvms
g: truncated packet (size=1514 left=1500) - kernel
2008 Aug 31 09:37:04 CP-beta2 %KERN-3-SYSTEM_MSG: packet_recvms
g: truncated packet (size=1514 left=1500) - kernel
2008 Aug 31 09:37:05 CP-beta2 %KERN-3-SYSTEM_MSG: packet_recvms
g: truncated packet (size=1514 left=1500) - kernel
2008 Aug 31 09:37:05 CP-beta2 %KERN-3-SYSTEM_MSG: packet_recvms
g: truncated packet (size=1514 left=1500) - kernel
2008 Aug 31 09:37:05 CP-beta2 %KERN-3-SYSTEM_MSG: packet_recvms
g: truncated packet (size=1514 left=1500) - kernel
n1000v#
```

システム メッセージ ログイングの設定確認

システム メッセージ ログイングの設定情報を確認するには、次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
<code>show logging console</code>	コンソール ログイング設定を表示します。 例 12-1 (P.12-15) を参照してください。
<code>show logging info</code>	ログイング設定を表示します。 例 12-2 (P.12-15) を参照してください。
<code>show logging last <i>number-lines</i></code>	ログ ファイルの末尾から指定行数を表示します。 例 12-3 (P.12-16) を参照してください。
<code>show logging level [<i>facility</i>]</code>	ファシリティ ログイング重大度設定を表示します。 例 12-4 (P.12-16) を参照してください。
<code>show logging module</code>	モジュール ログイング設定を表示します。 例 12-5 (P.12-17) を参照してください。
<code>show logging monitor</code>	モニタ ログイング設定を表示します。 例 12-6 (P.12-17) を参照してください。
<code>show logging server</code>	Syslog サーバ設定を表示します。 例 12-7 (P.12-17) を参照してください。
<code>show logging session</code>	ログイングセッションのステータスを表示します。 例 12-8 (P.12-17) を参照してください。

コマンド	目的
show logging status	ログング ステータスを表示します。 例 12-9 (P.12-17) を参照してください。
show logging timestamp	ログング タイムスタンプ単位設定を表示します。 例 12-10 (P.12-17) を参照してください。

例 12-1 show logging console

```
n1000v# show logging console
Logging console:                disabled
n1000v#
```

例 12-2 show logging info

```
n1000v# show logging info

Logging console:                enabled (Severity: critical)
Logging monitor:                enabled (Severity: notifications)
Logging linecard:              enabled (Severity: notifications)
Logging timestamp:              Seconds
Logging server:                 disabled
Logging logfile:                enabled
                                Name - g/external/messages: Severity - notifications Size - 4194304
```

Facility	Default Severity	Current Session Severity
-----	-----	-----
aaa	2	2
auth	0	0
authpriv	3	3
bootvar	5	5
callhome	2	2
cdp	2	2
cert_enroll	2	2
cfs	3	3
confcheck	2	2
cron	3	3
daemon	3	3
diagclient	2	2
diagmgr	2	2
eth_port_channel	5	5
ethpm	5	5
evmc	5	5
evms	2	2
feature-mgr	2	2
ftp	3	3
ifmgr	5	5
igmp_1	3	3
ip	2	2
ipv6	2	2
kern	6	6
l2fm	2	2
licmgr	6	6
local0	3	3
local1	3	3
local2	3	3
local3	3	3
local4	3	3
local5	3	3

■ システム メッセージ ログिंगの設定確認

local6	3	3
local7	3	3
lpr	3	3
mail	3	3
mfdm	2	2
module	5	5
monitor	7	7
msh	2	2
mvsh	2	2
news	3	3
ntp	2	2
otm	3	3
pblr	2	2
pixm	2	2
pixmc	2	2
platform	5	5
portprofile	5	5
private-vlan	3	3
radius	2	2
res_mgr	2	2
rpm	2	2
sal	2	2
securityd	2	2
sksd	3	3
stp	3	3
syslog	3	3
sysmgr	3	3
ufdm	2	2
urib	3	3
user	3	3
uucp	3	3
vdc_mgr	6	6
vim	5	5
vlan_mgr	2	2
vms	5	5
vshd	5	5
xmlma	3	3

0 (emergencies)	1 (alerts)	2 (critical)
3 (errors)	4 (warnings)	5 (notifications)
6 (information)	7 (debugging)	

n1000v\$

例 12-3 show logging last

```
n1000v# show logging last 5
2008 Jul 29 17:52:42 S22-DCOS %ETHPORT-5-IF_UP: Interface Ethernet2/5 is up in mode access
2008 Jul 29 17:52:43 S22-DCOS %ETHPORT-5-IF_UP: Interface Ethernet2/2 is up in mode trunk
2008 Jul 29 17:52:43 S22-DCOS %ETHPORT-5-IF_UP: Interface Ethernet2/4 is up in mode access
2008 Jul 29 17:53:04 S22-DCOS %SYSMGR-3-BASIC_TRACE: process_cfg_write: PID 1858 with
message rcvd cfg_action from
sap 0x545 for vdc 1 at time 1217353984 .
2008 Jul 29 17:53:04 S22-DCOS clis[2558]: CLI-3-NVDB: Batched send failed for component:
clis
n1000v#
```

例 12-4 show logging level aaa

```
n1000v# show logging level aaa
Facility           Default Severity      Current Session Severity
-----
aaa                 2                      2
```



```
0(emergencies)          1(alerts)          2(critical)
3(errors)               4(warnings)       5(notifications)
6(information)         7(debugging)
```

```
n1000v#
```

例 12-5 show logging module

```
n1000v# show logging module
Logging linecard:          enabled (Severity: notifications)
n1000v#
```

例 12-6 show logging monitor

```
n1000v# show logging monitor
Logging monitor:          enabled (Severity: errors)
n1000v#
```

例 12-7 show logging server

```
n1000v# show logging server
Logging server:           enabled
{10.10.2.2}
  server severity:        debugging
  server facility:        local7
n1000v#
```

例 12-8 show logging session status

```
n1000v# show logging session status
Last Action Time Stamp   : Fri Nov 18 11:28:55 1910
Last Action               : Distribution Enable
Last Action Result       : Success
Last Action Failure Reason : none
n1000v#
```

例 12-9 show logging status

```
n1000v# show logging status
Fabric Distribute        : Enabled
Session State            : IDLE
n1000v#
```

例 12-10 show logging timestamp

```
n1000v# show logging timestamp
Logging timestamp:       Seconds
n1000v#
```

システム メッセージ ログイングの設定例

次に、システム メッセージ ログイングを設定する例を示します。

```
config t
  logging console 3
  logging monitor 3
  logging logfile my_log 6
  logging module 3
  logging level aaa 2
  logging timestamp milliseconds
  logging distribute
  logging server 172.28.254.253
  logging server 172.28.254.254 5 local3
  logging commit
  copy running-config startup-config
```

その他の関連資料

システム メッセージ ログイングの実装に関連する詳細情報については、次の項を参照してください。

- 「[関連資料](#)」(P.12-18)
- 「[標準](#)」(P.12-18)

関連資料

関連項目	参照先
システム メッセージ	『Cisco NX-OS System Messages Reference』
すべてのコマンド構文、コマンド モード、コマンド履歴、デフォルト、使用上のガイドライン、例	『Cisco Nexus 1000V Command Reference, Release 4.2(1)SV1(5.1)』

標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	—

システム メッセージ ログイング機能の履歴

ここでは、システム メッセージ ログイング機能のリリース履歴を示します。

機能名	リリース	機能情報
システム メッセージ ログイング	4.0(4)SV1(1)	この機能が導入されました。